学校法人 福島成蹊学園
福島成蹊中学校・高等学校
令和５年６月 15 日　NO.5
文責　学年係　ピルクフェルナ・W

一 貫 コ ー ス 通 信

Be Perfect As I Am Perfect

大学院にいたころ、戦後の韓国の驚くべき経済成長について調べたことがあり、その時に読んだ不思議な理論が記憶に残っています。その著者は、宗教改革の後のプロテスタント国家における経済成長は宗教によるものだと書いています。中世以降のカトリック教会の救済論は、他人から確認できる善行を積むことを重視するものでしたが、それに対し、聖書に戻ろうとしたプロテスタント教会では、救いとはひとえに他人には見えない信仰によるものだと教えました。その著者によると、もはや救いを行動によって証明できなくなったプロテスタントたちは、神の祝福を別の形で目に見える形にしようとしたのです。すなわち、お金持ちになろうと頑張りました。そういう風にして皆が裕福になろうとしたイギリスなどが結果的に全世界を支配するようになった、という理論です。

この理論は確かに興味深いアイディアではありますが、人は、富を目指すのに動機を必要としません。努力をしない、成長しない人々が、人生において成功しないのは、裕福になりたくないからではありません。すべての人は、自分なりに裕福になりたいと思っています。すなわち、問題は、皆が共通して持っている目的にあるのではなく、そこに至る過程にあるのです。人が人生において失敗する原因は、多くの場合、興味がない、挑戦しない、勉強しない、成長しようともしないからです。鍵を握るのはマインドセット（思考の傾向）です。

多数の研究によって、人格の３つの面が人生における成功/幸福に影響することが分かっています。その３つとは、知能、好奇心と誠実さです。好奇心を持つ人は、自分の知能を活かして自分の限界を超えて自分の能力を磨こうと努力しますし、誠実さを持てば、それが実を結び、成功に必要な成長をすることができます。

宗教改革が北ヨーロッパの一時的な経済発展の原因であったならば、その本質的な理由はお金持ちになろうという動機付けによるものではなく、お金持ちになれるマインドの改革にあると思います。カトリックの一般信徒がラテン語の聖書を読めない上に行いによる救いを目指したために、行動の基準を他者からの評価に求めたのに対し、改革派のクリスチャンは、「わたしが完璧であるように、あなたがたも完璧であれ」という主の言葉を自分の行動の基準にして更に成長したと思われます。この文章のタイトルはこの言葉から採っています。この命令は完璧な人にしか救いを与えない、というわけではなく、寧ろ人々を福音へと導く言葉なのですが、それと同時に聖書のすべての権威をもって完璧さを目指さねばならないという責任をすべての人に負わせる言葉でもあります。この言葉は、私たちに努力をし、自分を磨き、研究し、変わるように強く求めています。

この理念を共有するために、特別な信仰を持つ必要はありません。ソクラテスやプラトンは、不断の成長を有意義な人生にとって不可欠な目標であると規定しました。そして、知性は自分で磨くことができます。好奇心は、新しいことに興味を持ち、挑戦し、吟味し、自分の考えと異なることに対しても心が開かれている、などといった態度を指します。Test all things. Hold on to what is good. 誠実さは、責任を持つことであり、何かをする時にはきちんと取り組む姿勢を持つことを意味します。

人生において成功するには、状態、能力、環境以上に、性格が大切です。だからこそ、学力に注目する以上に、子どもの人格に注意を配る方が大事だと思います。子どもたちが他人を満足させるためだけではなく、自ら成長しようと努力することを願っています。